

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

IS〜重火力は正義！ロマンもあるっけ？〜

### 【作者名】

KPGver2

### 【あらすじ】

何かスランプ入ってしまったので息抜きにネタ重視のシナリオにする予定です

スランプは 書いてりゃ治る かもしれない

オリ主ヒロインは篝のみです。いいよね！篝ちゃんサイコー！





装甲悪鬼村正

D i e s i r a e

インフィニット・ストラトス

どれがええ？」

一般人バッドエンド多すぎワロタ

というかIS浮きすぎww

何コレ？何でIS以外全部エロゲなの？

でもまあ

「インフィニット・ストラトスで」

「わしとしては装甲悪鬼村正とか」

「インフィニット・ストラトスで」

誰が行くか！装甲悪鬼村正とか下手に六波羅の兵士になったら間違いないバッドエンドじゃねえか！

ゴトウーザ様のキャラの所為で死ぬぞ！

確かにパンツ博士とか会ってみたいけどさ！

しにたくないお！

「ならばお前さんの能力じゃな、お前さんはISを作れるようにか  
つ乗れるようにしといたから」

「おkおk…待とつか」

乗れるのはいい…作る？

「俺っちIS作れちゃうの？」

「…」

うっはww二度目の人生モルモットもしくは働き蜂確定とかma  
j i u k e r u

「ならばうちからも能力要求していい？つかさせる」

このバッドエンド好き殺してえけどbe coo1ってやつだ

「いいじゃろ」

「素材とか材料とか無限にして」

火薬とか鉄板とかさ、うん

「おkおk、んじゃお前さんは主人公と同年代に転生させるぞい」

「まった！せめて赤ちゃんはskipモードの方向で」

「注文おおいのお、ほれさっさと行け」

んなわけだ！

俺、転生！いつくぜえ！

！  
「篝ちゃんとお友達になりますた、・・・」(キリッ

す  
おはっす！転生した一文字堂 紅葉(いちもんじどう もみじ)っ

もみじって名前だけど男ダヨ？男の娘じゃないヨ？

「ほーきちゃん！ほーきちゃん！ほーきちゃん！ほーきちゃん！」

唐突だけど原作キャラの篠ノ之 篝の前に俺登場！

「ん？どうした？」

あ、言い忘れてたけど俺っちも篝ちゃんとお友達だもんね！

「見てみて！35m弾頭のグレネードレールキャノン！」

と自作兵器を篝ちゃんに見せる

「また、凄いモノを作ったな」

と苦笑い混じりの笑顔で返してくれる

やっぱり篝ちゃんサイコーだね！一夏だったら…

『んなもん作んなよ！』

から説教が始まるし

拳句の果てに千冬さん呼ばれてバッドエンドへ直行便だ

ちなみにこの35m弾頭のグレネードレールキャノンと言うのは

35mあるグレネード弾をレールガンの速度で発射すると言う物

え？電力どうすんだって？

モーマンタイ！電力も無限にしてくれてたらしいから！

あと使えそうなものとかはほとんど無限だった

無限とかいらぬのにね

あ、ちなみにどこにあるかって言うと空間倉庫になるかな

けっして金ピカの王様のやつじゃないよ？

ただ…この空間倉庫、欠点があるんだよね

それは

「？何を飲んでいる？」

篝ちゃんが俺が飲んでるものを見て聞いてくるので

「ぬるこ「ソーラ」」

と答えた

そう、欠点と言うのは食料とかがぬるくなることだ



火薬とか危険な物とかは適温で保たれてるみたいなのに何故か兵器に使えないものはぬるくなる

おかげで炭酸をいれたらぬるくなって、A、Cマズー!! ペツ!! 状態になる

で、まあどうでもいいね

「ん、弾が気に入らないけどまあいいや。ねえ篝ちゃんどうっか行こっか?」

「唐突過ぎるだろう」

「気にしない気にしない」

「お、お前は私でいいのか?」

と顔を赤らめて聞いてくる

なんぞ?

「篝ちゃんがいいかな」

俺の話わからないなりにしっかり聞いてくれるし笑顔可愛いし

篝ちゃんの笑顔を見れば恐らく十人中十人が（・・・）イイネ! と言っただろう

「わ、わかった」



寂しいからそっぽ向かないで欲しいお（；；；）

「行くぜ行くぜ行くぜえー！」

と篝ちゃんをおんぶしながら走る

「だ、大丈夫なのか？」

と心配してくれる篝ちゃんやさすい！

でも！

「体力限界だけどあれを篝ちゃんと見るためなら！」

と走り抜ける

俺が目指しているのは

“最速戦士ラ○○カルグッ○○ピート！”

というアニメのOVA特別試写会

ついさっきその招待券を福引であてたのだ！

わかる奴にはわかるだろう？そのアニメの主人公が誰なのか

ギリギリで上映前にたどり着いて席に着いた

出てきた時俺が泣いていたのは言っまでもないだろう

「なんかゴメンな篝ちゃん」

「ん？何がだ？」

謝る俺に理解が出来ないという反応の篝ちゃん

「いや、今日さ？連れ回してばっかだったじゃん？篝ちゃん楽しめなかつたでしょ？」

そう、今日基本的に男が行くような場所ばっか連れて行ってしまった

だから篝ちゃんがつままないのではと思ったのだが

「そうでもない。私としてはお前と一緒にいるのは楽しいからな」

篝ちゃん（……）

「な、何故泣く!？」

涙を流しだした俺に慌ててどっぴにかしよつとする篝ちゃん

「感動したー!」

「そ、そうか……」

苦笑いな篝ちゃん

まあいきなり感動したとか言われたら無理もないか

「ちょっと待っていてー!」

そう言って俺は猛ダッシュで走り去る

数分後

「篝ちゃんこれー!」

と篝ちゃんにある物を差し出す

「これは?」

俺の手の中に有る物を見て不思議そうな顔をする篝ちゃん

「リボン、篝ちゃんちょっと髪伸びて邪魔そうにしてる時あったでしょ?これだまどめてみんしゃいー!」

「紅葉………ありがとう」

「いえいえ」

そう言って篝ちゃんはリボンで髪をくくる

………おおー!

「び、びしだ？」

…なんかね？もうね？あれだね

言葉は不要？ってやつ？

だけどあえて言葉にしよう！

「very good」

今までの中で最高の発音で言えたと思う）．．．（

「そ、そうか」

篤ちゃんは顔を赤らめて俯き

「きよ、今日はもう遅いー帰るぞー」

と言って俺の手を引っ張っていった

苛め？……………お、殺そう

「ほっほっほっきつちゃんああああん！」

いつものように篝ちゃん家に遊びに来ました

「やあやあよく来たねもーくん」

と未来でISを作る人こと篠ノ之 東氏が挨拶してった

「ちやす束さん！篝ちゃんを嫁にもらいに来ました」

「まだ早いよ!？」

あの束さんを驚かせたぜイエー！

「でも篝ちゃんはまだ帰ってきてないんだ。いつくんともうすぐ帰ってくるんじゃないかな？」

なん……………だと……………？

これが学校が違う弊害か…

俺はその場でorzの状態になる

一緒の学校の一夏が妬ま……………つらまやしお！

と思っっていたら

「あ、帰ってきたみたいだね」

と東さんが俺の後ろを見て言った

そこには

若干機嫌が悪い一夏と落ち込んでいる篝ちゃんがいた

……落ち込んでる？ why？

「……………。(ノタダイマ 篝ちゃん！」

「……………」

……………？

「バーン——○○○○○○—— 帰ったじょー！」

「……………」

……………無視されたお……………

「篝ちゃんに無視された……………しろう」

「待て待て待て待て！」

どこからともなく出したロープで首吊り自殺しようとしたら一夏に止められた

「ほっといてやってくれないか？ 今日篝がさ、紅葉に貰ったリボン付けていったら虐められてさ。ちょっと落ち込んでるんだよ」



……

「一夏、篝ちゃんをいじめてたやつの名前と住所と見た目を教えて」

「え？住所は知らないけど名前は…」

一夏が篝ちゃんを苛めていると思われる三人の名前を言ってくれた

おk記憶完了

「ちょっと出かけてくる」

「え？おう、いってらっしゃい」

一夏がのほほんとした顔で見送ってくれる

…これから何が起きるかも知らずに

とある倉庫内

「え？あれ？」

「「」？ど「」だ？」

「って!?何だよこれ!？」

と三者三様に驚くカス

「Ladies and gentlemen! といってもおまんらと俺しかいないけどね」

バン! と効果音をつけて登場した俺に驚く三人

驚き過ぎmg。(。^ ^。)。プギヤーツハハハヒヤヒヤ  
ヒヤヒヤ

その中のひとりがいち早く正気を取り戻した

「お、お前がやったのかよこれ!」

「OFF COURSE!」

「なんでこんな事をすんだよ!」

「そーだ!」

ほか二人も正気に戻ったみたい

え? なんでって……

「お前らが箒ちゃんをいじめてるからだけど?」

「箒………篠ノ之か? はっ! 男女がリボンつけてんのを笑って何がおかしい!」

おk。君らの処刑法が決まった



「バイザー型モニター全面に映る超気持ち悪いオカマの山のサービスシーン（笑）」

「二つ！」

「ヘッドホンから大音量で聞こえる嫌な音大全！（チョークに爪立てた音とか）」

「三つ！」

「足の裏をおもいっきりくすぐる羽っぽい何か。たまにくすぐり方が変わるヨ（n、）、」

「という三つだ！」

「これを受ければ更生すること間違いない！」

「さあ！お前らの罪を数えろ！」

翌日から箒に対するいじめはなくなっただらしい

それを不思議におもった一夏が紅葉に

「何やったんだ一体？」

と聞き

「(；´∀｀)オレシラナイ」

と言つ怪しい返答が帰ってきた

一夏は今後一切紅葉に篝の苛め等は話さないでおこうと決めたの  
だった……主に相手の為に

白騎士事件？おkおk……ま〜ぜてっ（n、（

きた……

ついにキタお！

待ちに待った白騎士事件キタコレ（。。（

『現在多数のミサイルが世界から日本めがけて発射されております』

とニュースでも報道されてる

けど俺ってば白騎士さんに小型カメラつけてっからそれよりもっと詳細にわかるお

え？なんで白騎士にカメラついてんだって？

あつたからつけた、以上！

『あーあれは何でしょっ！』

とキャスターさんが白騎士見つけたみたい

テレビと白騎士に付けたカメラの映像をじっくり見る

さあ！みしちくり、破壊するところ！

と興奮していると腕に何か当たった感覚が



格納しているミサイルを発射し多量のミサイルを激は

さらには残ったミサイルをレールキャノンから放たれた砲撃が撃  
墜

その結果ミサイルは一発たりとも通過せず

つまり

白騎士見せ場なし！

しくじったお（；；、A

原作ぶっ壊しもいいところじゃん

と思ったら

『す、す、すいー！砲撃を躲しています！』

起動しっぱなしのレールキャノンが危険度の高い白騎士を優先で  
撃墜しようとする

更にミサイルも白騎士を襲う

あわわ（；；、（

ま、まずは止めよう！

俺はレールキャノンとミサイルのスイッチを止める



あつぶねえ、下手したらへり撃墜してたじゃんww

まあレールキャノンとか避けたりしたからISのすごさは伝わったかにゃ？

あとでちーちゃんに謝りに行くこと） 楽しげ）

「束！何だあの兵器は！」

私は束に言い寄る

「束さんも知らないよ!? 第一日本にあんなの作る技術ないよ!？」

む。なら一体

ピンポンとインターホンが音を鳴らす

「あれ？もーくんだ」

紅葉？何故？

紅葉がやってくる理由がわからない私達は顔を見合わせながら玄関に行き紅葉を迎え入れる

「ってわけで撃っちゃった）。・（って入る」

と事情説明と謝罪を明るくやったら

ガシッ！と頭を掴まれ

「みぎゃあああああああ」

アイアンクロー！?

あ、頭が！凹む！窪む！ミンチになるううう！

「おーまーえー！ああああああ！！」

その後「っってり出汁すらでないほどじぼられますた

……げせぬ

箒ちゃんのお別れ……………するわけないだろBa  
by?

おはっす。紅葉っす

なんでも箒ちゃんは束さんがISを作ったせいで幼女保護飼育プログラムとかいうやつで引っ越す事になったらしい

ところで幼女保護飼育プログラムってなんぞ？

「紅葉…」

と悲しそうな顔する箒ちゃん

「泣かない泣かない。また会えるって」

と笑顔の俺

「ほんとにまた会えるんだな？」

「餅ロン！」

だって原作介入したいもん

「あ、そだ。箒ちゃんこれあげる」

イヤリングを差し出す

「これはイヤリングか？」

「イカリングに非ず！……聞いてないっすよねサーセン」

若干怖い目で睨まれたお（；、（

「できる限り持ち歩いてね」

「わかった」

と言つなり耳につけてくれた

篝ちゃんやつとっしー！

「ばいばい（ヾノ・・・）」

「次に会う時までには少しは男らしくなっておけ！」

え？何ソレ（ヾノ・・・（ムリムリ

だってこの海苔かえるつもりないっす

間違った…ノリだ

初めてか？篠ノ之 篝だ

「はあ……………」

引越ししてから一ヶ月が経つ……

未だに紅葉の事が忘れられない

いや、忘れるつもりはないんだ…

ただ、思いださないようにしているだけ…

紅葉はまた会えると言ったがそんな簡単に会えるわけなどない…

それがわかっているから思い出さないようにしていた

「篠ノ之さん、「」教えてー!」

と引越し先の一番近い小学校で出来た友人が次の授業の宿題を教わりに来た

紅葉の事はしばらく忘れるよう努力しよう

そう思っていた……

のだが…

「ほら、席つけ授業始めるぞ」

教師が授業の準備を進めてゆく

そして授業が始まり、問題を解いたり、先生に当てられて答えたりして時間が過ぎてゆく

授業開始から23分くらいか？

そのくらいの時に事件…というか襲来というか…まあそれが起きた

「箒ちゃん箒ちゃん！やっべえモン作っちゃった！」

そう言ってドアを蹴破って来たのは私の幼馴染だった

「な!?何だお前は!?!」

と見知らぬオッサンがこっちを見て指差す

「大人なのに人に指さしちゃういけないって習わなかったの?だっさあ  
」

と言い返すと

「んな!?!」

変な声上げて顔赤くなった

おろろ?

「ごんのガキがああああ!」

沸点低っ!!

今時の若者でももっと沸点高いつてギャハハ（\*）（ノシミ

「待てやアアアアア！」

(・・ノ)ノ

予想外に速い！

けど……

「おっそおおおーい！」

ふはははははははははは……げぼげぼっ！

擬似武○○金モー○○ギア スカイウォーカーモードの前では遅すぎるおー！

「な!?何で追いつけないんだ!？」

と驚く

「じゃらこの言葉を君に進呈しよう(笑)

「お前に足りない物！それは！情熱思想理念頭脳気品優雅さ勤勉さ！そしてなによりもおおおおー！速さが足りない!!!!」

「おやふっー」

速さが足りない!!!!の前に原作を再現するためにカ○マの代わりにオッサンを蹴っ飛ばしました(・・、)(ノ)

「見て見て篝ちゃんー」のモー○○ギア！装備すれば超高速で走れる

「優れモノ！」

「あ、ああ」

あまりのスゴさのせいか篝ちゃんの反応が鈍い

「最高時速400km！すごいね！流石俺！」

「そ、それはすごいな……」

まっだ反応が鈍いつすなあ

「そんなすごいお前は俺と一緒に来ようか？」

（ノ・人・、）??はて…?」

つい最近聞いた事がある声が後ろから……

「ワ（）。。（）オー！」

さっき蹴っ飛ばしたおっさんが後ろに！

「ちぁ行！っつか」

とハアハアしながら俺の手を掴むので

「は、初めては優しく……」

と女っぽく言ったら

「少し……頭冷やそうか」



NO!!びっしり詰めなうそのセリフは東ちゃん！

あ…あああああ！

アーーーーーッ  
!!!!

その後野菜が如く雑にダンボールに詰められて郵送されますた

ヒドイワ）　Ｔ　Ｔ）

篝ちゃんと恋仲になりますた( )( ) \* 。 \* ( )  
( ) ( )

「篝ちゃん」

私を呼ぶ紅葉

「篝ちゃん篝ちゃん！」

急かすように呼ぶ紅葉

「無視しないで欲しいお( ) . . . ( )」

寂しそうな紅葉

そのどれもが私の心を揺さぶる

やはり私はあいつに…紅葉に惚れているんだろう

あいつの無邪気さとか褒められて嬉しそうな顔とか私の反応に満  
足してるところとか…

惚れたところを上げていけばキリがない

それほど私はあいつを愛している

なら紅葉は？

私のことをどう思っているのだろうか？

好き？

嫌い？

「え？何？俺の事が好き？うわぁ…勘違いです」

…何故だろうか？そう言う紅葉が浮かんだ

恐らく実際にそう言われたら私は立ち直れないだろう

だから告白しない…できない

あいつが私と一緒にいてくれるなら…私はどんな関係でもいい…

そう思っていたのに

「篝ちゃんの事が好きだからだけど？」

そんな言葉で考えが砕かれた

時は戻り数分前

「いやぁ…大漁大漁ww」

ホクホクした顔で紅葉が顔が見えないくらいの駄菓子を持って駄菓子屋から出てくる

「本当に凄い量だな…」

私は苦笑いしながら出てきた紅葉に近づくと

「食べる？っ〇〇い棒」

差し出してきたので

「ありがたく頂戴しよう」

受け取ると

“コーンポージュ味”

私も好きな味だった

それからまずは駄菓子を駅前にある有料ロッカーに入れて二人で街中を散策する

ユニ〇ロでお互いの服を見たり

紅葉がゲームセンターでBLA〇〇LUEというゲームで舐めプ  
+アス〇〇ルフイニッシュと言うのをして相手を怒らせて逃げたり

いろんな事をした

けれど…

遊んでいる時もずっと気になっていた

何で紅葉は私に会いに来てくれるんだ？

わざわざ会いに来るには遠い

なのにかんりの頻度と言っていていい程会いに来てくれる

丁度人気の少ない街を見下ろせる公園に来た

それを聞くにはいい場所だろう

そう思い聞いてみた

「紅葉」

「ん？何？」

途中で売っていたクレープをほおぼりながらこちらを向く紅葉

……いつの間に……

「篝ちゃんの方もあつよ？」

と差し出される

「あ、ありがとう」

受け取り一口食べてみる

………美味しい

……じゃない！

「そ、その……紅葉は」

「ん？」

「紅葉は何故私に会いに来てくれるんだ？」

聞いてみたいという気持ち半分聞きたくないという気持ち半分

何故か？

それは返答が予想できないから

紅葉はいつも私達の考えの斜め上に行く

そのせいで振り回される事も多々あった

だから多少は予想出来る…と思えばその予想をやすやすと超えてくる

それが紅葉だ

だからどんな返答が帰ってくるのかも予想できない

そっ……

「篝ちゃんの事が好きだからだけっ。」

「じついつ返答が来るのも全く予想できないのだ

「あ……………ん……………」

「じつ、好き」

…………え〜と

「その好きとはどつ言つ意味の好きだ？」

どこかショートした頭で紅葉に聞く

「愛してるの好きだけど？」

「」

一瞬意識が飛んだ

なんといつた？

愛してる？

紅葉が？私を？

「」  
「ッ！」

理解し顔が真っ赤になる

「おうふ、どした筈ちゃん？顔がケチャップみたいに赤くなってるぞ

「？」

「お、お、お前が！ああああ愛しているなどと言つから！」

「何か問題が？（、・・・（キリッ！」

そ、それは…………

え、ええい！うだうだと考えるのは私らしくない！

「紅葉！」

「んあ？」

最後の一口を食おうとしたところで紅葉が動きを止めた

「私もお前を愛しているーそ、その…っ…っっ、付き合ってくれ」

「告白キタ　　○　、　＊○（）○＊　・　＊○（）○＊　。　○　○

キタ　　「

「!？」

突然叫ぶ紅葉に驚いてしまった

「OKっすー」

そんな返答が帰ってきた

「……………え〜とこれで私達は恋人…なんだろうか？」

「多分ね」

どっにも締りが悪い告白であった



原作始まりますた…俺っち4組…げせぬ

IS学園

ISについてを学ぶことができる世界でただ一つの場所である

但し、入学するにはISを動かせることが前提条件である

ISは男には動かせず、女にしか動かせない

故にもし、ISを動かせる男などが出れば

「ハーレムキタ。。。。」

となるのだろう

……この少年の盛り上がりようは明らかに可笑しいが…

「もうw k t k が止まらないねっ！」

「五月蠅いよ紅葉」

IS学園前で叫んだら一夏に怒られますた

…げせぬ

「一夏は相変わらずへタ…………鈍k…………ホm…………枯れてるなあ」

「おい真ん中！お前何言おうとした！？いやいい、やっぱ言っちな！」

「( ^ o ^ ) ホモオ」

「言っなって言っ たよな！」

と職員室で雑談なつ

一夏…ツッコミはもう少しキレをPlease！

「黙れ」

「キネマティック！」

ちーちゃんに叩かれたお

「ちーちゃんぶつなんてひどいお( ; ; )」

間違えた

「出席簿でぶつたな!?親父にもされたことないの!」

某ニューでタイプな初代の人風に言ってみたお( )o)\*。\* ( )  
( )

「いや、普通の人出席簿なんて持ってないだろ」

「持つてるよ？」

懐から出席簿を取り出す

「何で持ってたんだよお前は……………」

呆れた表情ごちっすゝ（\*ゝ、）ノ

「馬鹿やってないでさっさと教室に行け……………というか何故来た……………」

疲れた表情（・・）イイネ！

咄嗟にカメラを出しその顔を撮影！

「ふむ…東さんに送るっと」

「待て」

ちふゆ は もみじ の て と あたま を つかんだ！

I Y A N A Y O K A N N

「みぎゃあああああああああ  
!!!!???

君に届けIRONCROW（笑）

ノーサンキュー!?アイアンクローはノーサンキューっすよ!?

頭が！手が！ねじ切れるうううううう  
!!!!

数分後

「ほら織斑、さっさと教室に行け」

「あ、おう」

と言って倒れてる俺を見てくる一夏

「大丈夫か？」

「ああ、じょぶじょぶだいじょぶ」

ああ、大丈夫さ

「あの階段を登ればいいんしょ？」

「登るなああああああ!!!」

そう言っつて俺をシャカシャカポテトが如く振る!!

「お……………」

「お？」

「お前にレインボー……………ガクッ……………」

「いや意味分かんねえよ!!」

そして意識プツッンしましたとや

間違いなくmg) (^ (^) プギャーされるお

「はー」

気がついたら見知らぬ場所……………

なら言う台詞は一つしかあるまい

「知らない天井だ……………」

使うタイミングが違う？モーマンタイ気にするな

「……………」

何か見知らぬ？……………どこか見たことある気がする女子からジト  
目向けられてるお（\*、（ハアハア

あたくしドMじゃ（ゞノ・・（ナイナイ

でもなんぞ？この女子どっか見たことある気がする！

「じゃあ次の人自己紹介お願いね」

「更識 簪です……………」

そう言ってますわる

……………更識 簪？



はみごにされたならされたなりに楽しむお。  
)

「かんちゃんかんちゃんー！」

「かんちゃんって呼ばないで………」

「(、、)」

愛称で呼んだら拒否されたお……

「おひさちゃんおひさちゃんー！」

「……私はさらちゃんじゃない」

「更識だからさらちゃん、おk？」

「帰って」

「(、、)」

愛称付けたら却下されたお……

授業開始のチャイムだったので着席するお

えらい？俺えらい)・(？

ISSの授業！

なんぞこれ？

全く理解できないお（＾＾）

お前IS作れるんじゃないの？って？

作れるよ？僕天才だから！ww

うそですサーセン、東さんから設計図もらってつくりますた

専門用語はフィーリングで書いてもらったからわかりやすかった

お

”ぱしりお稻荷さんキャンセルで”だけ？あれは浮く謎の力とか書かれててまじうける

え？そんなお前が本当にIS作れんのかって？

安心しろよ！こつ見えても俺、前世でスト○○クフ○○ダムガ○○ムのプラモを説明書見ずに作ってMGボールにしたんだぜ？すごいだろ！

そんな俺に不可能はある！

カッコつかなくてサーセン…

「一文字堂くん？わからないところでもあるのかな？」

山田先生が聞いてくるお



べつじやら真耶さんはES授業の先生のようにですw w

すっげえ言うのが忍びない

べつじせもつー夏がやったんだろっし…

ー番煎じは面白くないでしょ？

でもやるしかないお！

「はー…」

「？」

「全くわかりません（・・）ドヤッ！」

ドヤ顔で決めてみたお

「え、えええ!? ー文字堂くんも!?!」

ああ……………やっぱりー番煎じだった（・・）

「おい、ー文字堂」

さっきまで諦観を決めてたちーちゃんが動きだした

べつじやら教師は学年別みたいですにえ

「参考書はどっしした？」

「煮込んでたら溶けますた（・・）（キリッ…）」

スパン！と音をたてて頭を叩かれたお……………（；；）

「お前にも再発行してやる、一週間以内に覚える」

「お、絶対やらないっす」

再度スパン！と音をたてて出席簿が炸裂

「サーセン、自重するので出席簿は勘弁してちょ……………」

顔が歪んじまっぜー！

「やれ、やらないならどこかの国に売るぞ」

「おいくらで？」

「5円だ」

あっしの価値つま〇棒以下（；；）

それからもボケ続け出席簿でつっこまれる授業が終わり

ついに来ました昼休み！

篝ちゃんに会いに行くお！

「え？篠ノ之さん？どこか行っちゃった」

.....Orz

「てなことがあったわけですよ」

「だからって私に絡まないで.....」

自分のクラスに戻ってきてきてかんちゃんと雑談なう

相変わらずつれない態度のかんちゃん（\*、、）ハアハア

つるぺた具合がまた.....（・・）イイネ！

おいら胸ならどっちでもいけるっす（笑）

篝ちゃんとのさいく……………え？何ソレ誘ってんの？いただきまあああすっ!!

「結局篝ちゃんと会えなかったお……………」

かんちゃんとも仲良くなれなかったすい……

はあ……………

え？どこにいるかって？あれですよ、寮へ向かってるんですよ

ちーちゃんひどいよね、俺の荷物勝手に持ってくるんだから

……………

所持品一覧

着替え、携帯の充電器

以上

エロ本とか持ってくる気満々だったのにちーちゃんの手で焼却されたとか……

プレミアものいっぱいあったんだぞ！

もう手に入らないものとかもあったんだぞ!!

これはいつかちーちゃんにねこみみねこしっぽ付きミニスカフリルかつ胸元開いてて肩から先は袖なしのメイド服で

『じゅじゅとちま じゅんじゅするじやん』

って感じのメイドさんになってもらわなければ！

その頃

「!!?? ..... な、何だ？今凄まじく嫌な予感がしたんだが……」

と職員室で急に立ち上がりキョロキョロする織斑 千冬が居たと  
かww

ー夏卒倒間違いないね！

あいつシスコンだからww

はあ.....

憂鬱だべえ！

ぶっちゃけ篝ちゃんに会えなかったのが物凄く効いたお.....

篝ちゃんが近くににいるのに会えないとか何の拷問？

こりゃあれだ.....最近作った“れいとうビーム”を政府めが  
けて撃つしかないな！

れいとうビーム

某黄色い電気ネズミの出てくるアニメの技と名前が一緒ではある  
が関係ないですよ？……………サーセン名前拝借しますた

ISの防御または絶対防御ごと氷漬けにする事が出来るエネルギー  
ギーカーノン

高確率でISに乗ってる中の人<sup>が</sup>凍死する危険なシロモノ

会長相手に使おうと開発したもののエネルギー効率の悪さと殺傷  
性の高さから封印した

けれど使い道あるかな？<sup>と</sup>思いISに搭載している

いいよね？俺<sup>が</sup>うちにこんな拷問する政府に撃<sup>つ</sup>たって？

などと考えながら寮に到達

まず思ったのが

……………金かけてるなあ

ではなく

「うはっ！女の子ばっかの寮wktk!!」

だった

「……」

紙に書かれた番号の部屋の前に到達！

まあどうせ相部屋一夏だろうな〜などと思ってる

だって男二人だし？

……はあ……萎える

女の子ウツハウ八なところでウホッ！な展開構築しやすい状況とか  
まし萎える

IS学園到達して以来最っ高にテンション下がるは〜…

大暴落っすよほんとどうしてくれんすか〜、〜、〜、〜

まあ仕方ない…諦め諦め

と…いうわけで！

ベッドダ〜イブ！！

ぼふつと音を立てて少し体が跳ねる

ふつかふかだあよ〜〇)^(^(〇

うちのベッドよりいいものじゃない？

このまま爆睡かまそつか迷うべえ〜

「!!!!」

サアアア…と言う音が聞こえるお！

KO！RE！HA！

「入浴中キタ（。。（）！」

できるだけ小声で歓喜するお！

「おkおk、録画して誰かに売りつければがっばがっばだお（ー）」

個人的には見たくないがお金には勝てないお！

そつと決まれば携帯のカメラモード起動！

「わっわっわ…」

と向かっている

「ん？誰かいるのか？」

「!!??」

ま、まずいお！入ってるの女子だお！

流石にカツ丼を食うのは嫌だお！

どっかで聞いたんだけど警察署のカツ丼って自腹らしいね、おごり  
じゃないんだって（笑）

「同室になった篠ノ之 篝だ…よろし…く…」



出てきた女子がこっちを見て固まってるお

というか……………篝ちゃんだお!!!!

そして……………ヒロイ!!

バスタオル一枚で隠しきれない豊満な胸に鍛えられてるからか  
見事と言っしかない脚線美!

そしてまだ少し濡れた感じの肌

これから察するのは

「お、誘ってるんだね篝ちゃん! いったただっきまああすっ!」

「きゃっ!」

某怪盗二世ダイブで篝ちゃんに飛びつきますた

さあ! ここからは十八禁タイムだ! 篝ちゃんを頂くお(・・・)  
キリッ!!

お願いだから許しちくり筈ちゃん) ; ; ; )

「……………」

俺の隣で黙々とご飯を食べる筈ちゃん

「このご飯美味しいねー!」

と話を振るが

「……………」

無視される

あの初体験からずっと無視されてるお。。。)(、)。。。)

流石にやりすぎだったのか口も聞いてくれないお……

と紅葉が落ち込んでいるの知らない筈は

(じゅう~~~~、や、やはり顔を合わせられない!)

一週間経過した今でも初体験を思い出すせいで全く紅葉の顔を見られないでいた

(初めてにしてはあまりに感じすぎではなかっただろうか?も、もし紅葉に淫乱などと思われていたら!!)

(もしかして嫌われたかも……………)

こういつ時にこういう二人の考えは同じだったりする

授業が全て終わったけど帰るに帰れないお

篝ちゃんに嫌われていたら…

仲直りってどうやればいいの？

……………そうだ！困ったときの！

「かんちゃんごっしょ……………」

「……………」

かんちゃんだよりなう！

整備室にいるのはわかってたから一直線できますた

「ごっしょいたら仲直りできると思いますかな？」

「……………」

……無視されてるお( ; ; )

「あらっ？」

「これは？」

「兵装名：山嵐」

「第3世代技術のマルチロックオン・システムによって6機×8門のミサイルポッドから最大48発の独立稼動型誘導ミサイルの発射を可能とする兵装」

「現状：マルチロックオン・システムの未完成により単一ロックオンシステムを使用」

……あら？結構進んで……る？

ふむ……

「かんちゃん、マルチロックオン・システムあげるから相談のって？」

「じゃならー！」

「必要ない」

……「蹴されたお……」

「かんちゃんのけちゃんぽ」

びくっ

おろっ？今まゆが動いた気が…

「かんちゃんはいじめっ」

びくっ

反応してる…おk理解

「かんちゃんの天然！かんちゃんのおたんこなす！かんちゃんのみぬけ！」

ガタッ！

「おろっ？」

「ッ！」

「あだっ！！」

レンチで殴られたお!!!痛いお!!

「かんちゃんのおぼっりょくおんな」

「……………」

はあとため息つかれたお……………げせぬ

「お詫びに何かプレゼント」

「…むっ」

「何かプレゼントして謝ればいい……………」

おお!!にやるほど理解!

「あんがとかんちゃん!これあげる!マルチロックオン・システムのデータ!」

かんちゃんの目の前にデータの入ったディスクを置いてく

「え…?」

「…!」

おkおk!プレゼントだ!

三時間後

「箒ちゃん箒ちゃん!!」

「……………」

……………無視されてるお…

でもめげない!俺えらい!>>>?ヒロいのは認める!

bee coolモチツケおれ

「じめんーやりすぎたとは思ってたけど気持ちよすぎて止まらなかった  
」

「……………」

「うち向いてくれたー」

「お詫びっ！ねー」

食堂のおばちゃんにキッチンと材料借りて作ったお手製いちごの  
ショートケーキ！篝ちゃんの胸よりは硬いけど…

「お詫びっ」

「うん…篝ちゃんやりすぎたのに怒ってるっしょ？」

「Why(。 。 )とされたWhy？」

「怒ってる？私が？」

「うん」

……………む・「」・ん…

「いや…怒ってるわけじゃないんだ…その…恥ずかしかったのと…紅  
葉が……………私の事を嫌いになったんじゃないかって思うと…顔を  
合わせられなかった…」

「恥ずかしい……………未だに!？」

篝ちゃん萌え〜）（\*。。（）＝3

」で、嫌いになったってどゆこと?」

全く理解出来なかった一言を聞いてみると

」その……………感じすぎていただろう!!……………だから…淫乱とか思  
われて……………嫌われていないかと思って……………」

おk把握

」確かに篝ちゃんめっちゃくちゃ感じてたね」

」づぐ……………」

」おかげでオナネタ困らないっす）、・・・・・（キリッ!」

」……………はあ?」

」篝ちゃんを感じてたの色づぼくてAVレベル(笑)おかげでこれから  
オナネタこまらないっす!」

と言いながら空中投影モニターを出すと

』あ……………あああ……………んああ……………激しっ!……………ああ……………そんなにはっ  
……………はげしくされたらっ!あ……………ああ……………」

」なっ!!!」

そこに映るのは初体験の時の篝ちゃん





…ち、違う！違うんだ紅葉！違うんだああああああ！！

「ん……………」

顔に日の光が当たり目が覚めてゆく

「んん〜！」

上半身を起こし体を伸ばす

「ふう……………ん？」

伸ばすのをやめはつきりした意識で部屋を見ると何から何まで違う

「な…何だこじは？」

かなり広く綺麗な部屋にどこのお嬢様だと言いたくなるような家具の数々

そして見知らぬベッドに来たこともない寝間着

全く理解出来なかった

呆然しているとドアから人が入ってくる

「な!?」

そしてその人物を見て更に驚く

なんと入って来たのは執事服を来て所作の一つ一つが綺麗で正しく執事というような

一文字堂 紅葉であった

「おはようございますお嬢様」

お嬢様!?

紅葉の言葉に更に驚く

いつもの紅葉なら

『おはよう尊ちゃん』

なのに今日はどうしたのだろうか

「も、紅葉? どうしたんだ?」

「? どうしたと申されますと?」

「いつものお前は... その... きゃっほー! とか言うキャラじゃなかったか?」

「? 失礼ですがどなたかと勘違いなされているのでは?」

恋人の顔を見間違える者がいるだろうか? 否、いまい

ならそっくりさんか

そう思い込む事にした

「朝食をお持ちしました」

「あ、ああ。ありがとう」

「では」

そう言って去ってゆく執事紅葉を呆然と見送り食事につく

「お嬢様」

「な、なんだ？」

未だになれないお嬢様呼びに動揺しながらも答える筈

「本日もお嬢様に求婚される方々がいらっしやいました」

求婚!? なんだそれは!?

もはや理解が追いつかない状況になりゆき任せにする筈

そんな筈を連れ立って歩いていく執事紅葉

「じじじす」

と言いながら扉を開くとそこには

「あ、ああ……ああ………」

大量の紅葉が居た

「お！箒じゃねえか！」

その中から一際筋肉が目立つ紅葉が近寄ってきた

「どうだ箒？俺の嫁さんになる決心はついたか？」

嫁!?

「何をほざいている、箒は我が妻ぞ…貴様のごとき筋肉ダルマが近づくな！」

とかなり偉そうな紅葉が言う

妻!?

最早おかしくなりそうだ…いや既におかしいのか？

箒は錯乱してきた

「箒は……………俺と結ばれる」

とクールな紅葉

「違うよぼくだよ〜」

シヨタっ子な紅葉に

「俺と付き合っつに決まっつとろっつが」

と少し大人びてワイルドな紅葉

他にも沢山キャラのかぶりが一切ない「紅葉」から求婚というか自分の嫁だ！と言う宣言

さらには

「やはりお嬢様と結ばれるべきは私です」

と諦観していた執事紅葉まで参戦

「う…うわあああああああ…」

ガバッ！と音を立てて起きる

ベッドに居たことからさっきの出来事が夢であると理解した

「むっ…どした〜ほつきちゃん……………」

どこか眠たげに同じベッドで寝ていた紅葉が起きる

その顔を見てさっきの夢を鮮明に思い出す

そして一瞬にして考える

(わっ…きのは紅葉に対して浮気になるんじゃ…?)

明らか冷静ではないのは察せられるww

「どしたのっ…」

「ち…違う」

「へ？」

「…ち、違うー！違うんだ紅葉！違うんだあああああああ！！」

そう叫びながら部屋を走って出て行く筈と

「……………何が違うの？」

状況を全く理解できず残された紅葉であった

## 悲しい戦い

「やっぱりいいね……………人はこうあるべきだよ」

廃墟と化した街を見下ろしながら笑う少年

「ん？……………まだ生きてるのか」

偶然にも見つけた生き残りそれにISの武装を向け

「何生きてんだよ、死ねよ」

ためらいなく引き金を引いた

少年と生き残りの人の間に何かが割り込み救った

「なに……………何やってんだよ紅葉！」

「何って見てわからない一夏？壊して殺してるだけだよ？」

怒りを向けてくる一夏に何聞いてんのかと言う表情を向ける紅葉

「何でそんな事してんだ!!」

「別にいいじゃん、俺にもお前にも関係ない有象無象如きさ？」

「いいわけないだろうが!!」

そう言いながら一気に紅葉に迫る一夏



「はあ…」

雪片を振るうが

「甘いつて。戦績覚えてないわけ？1682戦0勝1682敗、それが一夏の俺との戦績だよ？一夏にISの操縦叩き込んだのも俺だしね」

雪片の柄を掴まれ攻撃を止められる

「っち…」

「それにさ？せっかく助けたのにほら…」

と指差した方向には先程一夏が割り込んできた助けた人が今まさに鉄骨に潰され

死んだ

「死んじやった」

「紅葉…！お前!!」

人が死んだのにも関わらず悲しむどころかむしろ楽しんでいる紅葉に怒りではなく悲しみを感じた一夏

「泣き虫なのかよお前ww」

泣きそうな一夏を見てケラケラと笑う紅葉

「……………ッ！」

そんな紅葉に予想外の方向からの攻撃が当たる

「なんだ？」

そつちを見れば

「紅葉…貴様のような奴を生かしておくわけにはいかん」

とレールカノンに向けてくるラウラ

「攻撃当てたからって調子に乗んなよ虫虻が…」

幼馴染である一夏ですら見たことのないほどの殺意をラウラに向ける紅葉

「アンタをこれ以上好きにさせられないのよ」

「ええ、ここで止めなくては貴方はこれ以上の破壊を撒き散らします  
「！」

「だから悪いけどここで止めさせてもらうわね紅葉くん」

更にやってきた鈴、セシリア、楯無

「ん〜」

何かを考える仕草をする紅葉

そこへ

「紅葉……………」

「なにやってるのね」

「……………」

遅れてやってきた篤、シャル、簪の三人が悲しげな表情を向けてくる

「むっ……………まあいつか」

そう言って雪片ごと一夏を振り回し投げ飛ばす

「ぐっ」

「一夏ー！」

鈴が飛んできた一夏を受け止める

「俺としては若干の役者不足を感じ得ないけどまあそれでも十分な役者だよな」

と言うと空中にモニターが大量に現れる

「今この状況は全世界に生放送さ。で、だ」

一夏の方に手を伸ばし

「ゲームをしよう一夏？」

まるで子供が遊ぼう！とでも言っつかの如く気楽に言う紅葉

「ルールは簡単、一夏達が俺を殺せばゲームクリアで報酬は俺がこれ以上破壊活動を行わないこと。そりゃ死んだら破壊活動なんてできないよね 逆に一夏が負ければゲームオーバー！俺は世界全てをぶっ壊す！あはははははは！」

「何…言ってるんだよ紅葉…」

「さあ始めよう！世界で最も愉快で痛快で狂ったゲームを！クハハハハハハハ!!」

紅葉の言葉に涙を流す数人と殺意を向ける数人

「英雄<sup>一夏</sup>が魔王<sup>俺</sup>を殺して世界を救うか、魔王<sup>俺</sup>が英雄<sup>一夏</sup>を殺して世界を壊すか！何て愉快的な喜劇だろうか！」

一体いつから狂ったのだろうか？

皆で楽しい生活をずっと送れると思っていた

のに

どこで間違っただろう？

なんでこんな未来になったのだろうか？

もう………戻れないのだろうか？

「さあ殺し合おう？ 織斑<sup>英</sup> 一夏<sup>雄</sup>？」

そうして親友……幼馴染……恋人……友人………そういった関係を持つもの達の悲しい戦いが始まった……

キタ (。)。 (。) !りんりんなう!...え?りんい  
ん?サーセン...

「はへ〜」

机に溶けるようにおだらけなう

ひじょくに無気力) 、 、 (、 、 )

なんか篝ちゃんと初体験やって仲直りして更にいちゃつけるよう  
になったのはいいんだけどね?

寝る時とかね?毎日同じベットだよ?

そんな幸せだからか

.....ものすごく〜く日常がだるいおww

授業とか受けたくないお!!

拙者真剣に働きたくないでござる!!

どうせモルモットな日常しか待ってないんだから篝ちゃんとどっ  
か逃げっかにゃ?

そこで篝ちゃんと俺の二人で淫欲なガチニート性活...誤字った性  
活.....性活.....性活にしか変換できないおギャハハ)\*  
(ノシシ

篝ちゃんの子は中隊は行かなくても小隊は欲しいおww

作りすぎワロスww

「ねえ聞いた？」

「2組の転校生でしょ？」

転向性？……………やばいお頭狂ってきたお……………

「中国の代表候補生だって」

……………えとあれだ！ぺちやっ子ついんてーる！……………違った  
りんりんだ

あの絶壁具合は見事だと思いますですはい

でもあつしは「篝ちゃんの」ばいんばいんを好む！

……………篝ちゃんにツインテールに一度なってもらおうかじゃ……………

いや……………某魔砲葬女……………誤字、全力全開な魔王さまみたいにサイドテ  
ルもありか？

……………後で知○袋で聞くか……………

昼休み

「篝ちゃん篝ちゃん！一緒に飯食つべー！」





けどめげないおーえらいよ俺(^ ^)！

「一夏と一緒に食べようと思ったんだけど……」

「おk」

起こしましょうー！

「ホアチヤアアアー！」

伸身三回宙返り一回捻りから踵落としを繰り返すと

「グハツ!? …… ってえ何だ？」

見事起きました！

……… すっげえタフっすね一夏ww

「一夏ー一緒にご飯食べるわよー！」

「え？お、おいー！」

りんりんがそのまま一夏を引きずって行ったお

「じゃ、篝ちゃん俺らも行こっか」

「あ、ああ…だが後で彼女との関係を教えてくれ」

「どうせ一夏達と一緒に食つつもりだからじょぶじょぶだいじょぶ」

篝ちゃんの手をとって一夏達を追いかける

「一文字堂君って何者？」

軽々と伸身三回宙返り一回捻りをやった紅葉に1  
1全員が思っ  
た疑問であった

篝ちゃん嫉妬？嫉妬なの？おk…今夜は寝かさな  
いぜ！嘘ですサーセン…

「で、紅葉…彼女とはどういう関係なんだ？」

とジト目で見てくる篝ちゃん

何故にジト目なのかそこんとk w s k

「幼馴染だけど？」

なんかまじ怖いので真面目に答えますヨ

「幼馴染？」

「そ、篝ちゃんが引越したっしょ？あの後襲来してきたのさ」

「待ちなさいよ、襲来って宇宙人じゃないのよ？」

「ペチャパイ星人では？」

「さっきも思ったけど言わなかった事言わせてもらっわ。表出る」  
「フ」

りんりんが怒ってるおww

「あんだおちよくってるでしょ」

「以心伝心……………もしかしてりんりん俺のことが…大嫌い……なのか  
」!？」

嫌いをめっちゃ小声で言ってみたww

「ちー違うわよー！その逆よー！」

え？その逆？マジでえ？

「俺のこと大好きなの？」

「そっちなか!!」

りんりんからかつの面白いお) = ^ ^ ^ = (

「ほんっと変わってないわねアンタ」

「照れるぜィ) / ^ \* (」

「うん、そういう反応すると思ってたから一応言っわね。褒めてないから」

おく把握

「……………」

むすっとした顔でりんりんを睨む篝ちゃん

「……………ちょっと紅葉」

「なんぞんしょ？」

腕を回されて小声で会話なう

「なんであの娘私を睨んでんの？」

「嫉妬かじゃ？」

今も…というよりもさっきより怖い顔で俺っちまで睨まれてるお

(((((。。。)))

「なんでって……………もしかしてアンタの言ってた片思いの？」

「残念無念また来てねん。おいらと篝ちゃんは両思いかつ恋人なうな  
のですよ」

「はあああああ  
!!!???

りんりんが突然大声を出した

耳がああああ耳がああああ!!(某三分間待ってやろうの人風に  
ww)

「ちょ…マジで!？」

「まじっすよ……………」

耳が壊れそうなう(。。。)

「よくアンタと恋人になったわね…私だったらアンタみたいなのぜっ  
たいお断りなだけで」

「失敬な!!これでもあっしは中学の時赤点常連だったんだじょ!」

「知ってるし威張れないしアンタが赤点なのテストが始まる前から爆睡かましてるからでしょ。拳句の果てには校門閉まる時間まで寝てるから私が一夏が引き取りに行くことになったの忘れたわけじゃないわよね？」

サーセン、今思い出しましたww

「授業とか受けたくないでござる。テストとか何ソレ美味しいの？学校なんて社会を嫌になるための場所なんだ!!」

「黙れダメ人間」

ひどいおww

「え〜とあんた箒って言ったっけ？」

「え？あ、ああ」

箒ちゃんに話しかけるりんりんと急に呼ばれて反応に困る箒ちゃん

「安心なさい、紅葉を狙ってるわけじゃないから」

箒ちゃんに腕を回して小声でしゃべるりんりん

二人に混ざる。(。。(オレオレ

「そ〜だよね、りんりん一夏を狙ってるもんね」

「そうs……………何でアンタが聞いてんだアアアアア!!」

「一夏はむっつりシスコンッ!!」

膝蹴りかまされたお…痛いお(ノ、)

「おいこら紅葉！何だ今の悲鳴！訂正しろ!!」

「帰れシスコン」

「そうよシスコン」

「ひびえ!?!」

篝ちゃんとりりんナイス連携!!

とりま篝ちゃんに蹴られたところ撫でてもらうお！

座ってる篝ちゃんの膝の上に勝手に頭を乗せる

「……………」

呆れた奴だ的な視線で見られた……………

でも撫でてくれたお!!

篝ちゃんマジ女神!!

「一夏と模擬戦？…固めてハメて終わりでしょｗｗ

「紅葉頼む！俺にIS操縦教えてくれ！」

「一夏土下座なうｗｗ

「ダンボール5箱のう〇い棒で手を打とう」

「地味に高いな……………」

「おk、操縦（^×^）オシエナイヨ」

「悪かった！俺が悪かったから!!」

「分ければよろしいのだよ助手ｗｗ

「とうとうよりも何故にあっし？代表な候補生さんがいらっしやるん  
じゃっ。」

「う…そうなんだけどさ？…同じ男子じゃん…教えてくれよ…」

「しょんぼりしすぎワロス！

「私からも頼む紅葉…教えてやってくれ」

「と篤ちゃんが頭を下げてる

「おい一夏！何やってる…さっさと行くぞ！俺からISの操縦教わるんだろー！」



「変わり身早すぎませんかねえ!？」

んなもんだ然じゃマイカ

事 篇 ちゃ ん の 頼 み

事

(ちーちゃんと束さんの百合っぶり)\*、(ハアハア)

(絶 対 に 超 え ら れ な い

壁)

(超 え ら れ な い

壁)

一夏の頼み事

に決まってるんだろ？

「なんだろう……泣きたくなってきた」

泣けばいいと思うよ(某EでVでAに乗る船の部品と同じ苗字の  
キャラ風ww)

「で、あんた誰」

「な!?」このセシリa」

「でだ一夏、お前ちょっと俺と模擬戦するべ」

「聞きなさい!」







またも篝ちゃんに呆れられたお……………

…げせぬ

ぼくのかんがえたさいきょうのあいえすとさい  
きょうのきやらWW

主人公

名前：一文字堂 紅葉（いちもんじどう もみじ）

性別：男

身長：173.4cm

体重：オシエナイヨ

好きな物：篠ノ之 箒

嫌いな物：うざい人、偉そうな人、醜い人

人物設定：一夏、千冬、箒、束、鈴の幼馴染。元からかなりのイケメンなのだが日頃の言動及び行動からあまりモテない残念なイケメンww。だが本人は篠ノ之 箒以外を恋愛対象として見ていないため別に問題ない。過去に紅葉に告白した女子が居たが「君に興味ない」の一言で振られた。日頃からネタなものや実用性の高いものも作るのだが大半が「飽きた」もしくは使いすぎでスクラップと化す。IS及びISの装備している兵器は“全て”自作

主人公のIS

名前：勘違いしないでよね！あんななんか重火力で瞬殺してあげるんだから！

基本カラー：紫（マブ○ヴの武○雷に憧れてw）

機体の世代：一応第四世代

見える場所にある装備

クアドラプルガトリングガン（ヘビーアームズ改EW版（緑の方）の  
ガトリングの4門版）×2

背部大口徑ビームキャノン（実弾も可）

肩部ガトリンググレネードキャノン×2

胸部ビームマシンガン×2

腕部ミサイルポッド×4（クアドラプルガトリングガンには当たらないように発射される）

腰部衝撃砲×2

脚部多弾格納ミサイルポッド×2

脚部グレネードキャノン×2

以下拡張領域の武装

れいとつビーム

356mmレールキャノン

トリモチランチャー

後数個の武装（これは使う予定があるのでひみっ）

ポップコーン（消費期限切れ）

カビの生えたレーズンパン

液体洗剤

粉末洗剤

布団

割り箸

目覚まし時計

小型テレビ

漫画下巻

機体設定・束の協力により独自で作り上げた第四世代型IS。第四世代ISなのだがパッケージが近接、砲戦、圧殺の三種類ある。最も性能が高いパッケージは圧殺。何故こんな名前なのかと言うと紅葉が作ったツンデレキャラクター（ボーカロイドみたいな）にそのセリフを言わせて、たまたまその時このISの音声入力不幸にも起動しておりこんな名前になった。拡張領域に関係無いものが入っているのは空間倉庫と間違っって入れているためである



筆者：一文字堂 紅葉

りんりんが篝ちゃんとの愛の巢に襲来したお…帰れ!!

「ん〜」

「どした一夏？マナーモードの携帯みたいに唸って？」

「そこは唸ってだけでいいんじゃない？」

気にするな

「いやな？鈴が俺の同室の人が変わってもらって言うってたんだけど  
ちっ。」

……………そう言えば原作だと篝ちゃんだけ？

あれ？誰だ今の一夏の相部屋の人？

「俺の同室ってさ、千冬姉なんだ」

りんりんオワタ〜（＾＾）／

「何で一夏の相部屋が千冬さんなのよ!!」

「無意味な愚痴乙」

りんりんが愚痴りに来た…帰って欲しいお

篝ちゃんと二人っきりのラブタイムを邪魔しないで欲しいお

せっかく篝ちゃんに膝枕してもらったりするつもりだったのに) #  
#。(イライラ

「せっかく私の色気で一夏を誘惑しようと思ったのに」

「いwwwwwwwwwろwwwwwwwwwけwwwwwwwwwまじっけ  
るwwwwwwwwwo——)ノミ ばんばん」

「冗談をマジにしないじゃ...」

「冗談だったら面白くないお) (、

「りんりんひんぬーだから誘惑とかむりぽこ」

「ねえ、ホントにアンタの彼氏殺していい?」

「諦める」

拳を握り締めてるりんりに諭すように篝ちゃんが言う

.....即答であんな言葉が出るって事はあっしって篝ちゃん  
に諦められてるんでしょうか?

「しかも一夏の奴私との約束間違えて覚えてるのよ!」

諦めたのか愚痴が変わったおwww

「どーせあれでしょ?」ねえ一夏、私が料理が上手くなったら毎日私の  
作った酢豚食べてくれる? (鈴の声で)『とかでしょ?』

「アンタってホント無駄に鋭いし変な技術持つてるわよね」

「それでもない（千冬の声で）」

声帯模写は趣味ですww

「あいつって（　　）　　^o^（　　）　　ホモオだから」

「.....嘘でしょ？」

「フリーズしたお（　　）（　　）（　　）」

「嘘です（　　）（　　）（　　）（　　）（　　）」

何かマジに取られかけた.....

一夏...お前さんホモ疑惑かかってるぞいww

「ねえ、」の怒りどいすねばいいと細い〜」

「りんりんクラス代表でしょ？今度の行事で一夏ボ「ればおk」

ちなみにあたくしはクラス代表をかんちゃんに押し付けました

かんちゃんにジト目で睨まれたのはいい思い出ww

「そつよね.....そつよね...一夏をボ「ればいこのよね!!」

「結果一夏に振られるりんりん」

「……………よく考えたらポコッってくる相手に惚れるなんてまずドM  
じゃない限りありえないわよね……………」

落ち込みだしたお

さっさと出て行って欲しいお…「っちは篝ちゃんといちゃつきた  
いんだ」##。(イライラ

と思つてたら

「…?」

見ると何かに握られた…誰かに握られた手

「……………」

篝ちゃんが握ってくれてるお!!!

(「っつしておくから相談にのってやってくれ)

とアイコンタクト

おk

もうね?ぼくちんのテンションね?

キタ\*。。。。\*。。。。。(。。。。\*。。。。  
\*。。。。\*!!!!

ですよ

「りんりん…何でも相談するが良い。一夏の弱点、好みのタイプ、黒歴史、持ってるエロ本の傾向。何でも答えてしんぜよう！」

「篠ノ之さん……………いえ尊敬と感謝を込めて箸って呼ばせて。ありがとう箸」

「気にするな」

おんやぁ？礼を言う相手が違うのでは？

それからしばらくりんりんの一夏を惚れさせようの会が続いたお

夢から現実逃避してたら遅刻しますた (´・`・´)  
ヤレヤレ

「紅葉……………」

「!？」

う、後ろを取られた!?この俺が!?

「イ、一夏デハナイカドウシタ？」

カタコトだお……………あまりの悪寒に腰抜けそうww

「なあ、篝と別れるよ」

「!？」

何故こいつ俺と篝ちゃんが付き合ってるの知ってるの!?鈍感、ヘタレ、唐変木オブ唐変木、究極のシスコンであるこいつが気づくなどありえないお!!

それより何故でしょう?悪寒が凄なお……………

「篝と何て別れて俺と付き合えよ」

「f s t r b e a t s i j i i b s j u b v l i d g f v b a s e i b s j d k b  
じゅあさ」

what!? why!?何が起きてるのか理解できないお。(´・`・´)!!!

「お前の事…ずっと好きだったんだ……………」

ぎゃあああああああ!!聞きたくない聞きたくない!!

「どつしても別れないなら……………俺が…忘れさせてやるよ」

へるうううぶ!!尊ちゃんへるううううぶ!!

「近づくな!!!キモイ!!」

「恥ずかしがり屋だな」

ぎゃあああああああ  
!!!!!!  
一夏の奴止まらないお!!

ああ、おいらどつになるんだろっか?

「こへげ」

あ……………あああ……………ああ!!

ア――



!!!!

「……………夢でよかったお（；・；）」

あんな腐女子お好みの展開とかなってたまりますか！

カサッ

? 何の音…? ?

カサッ

……………枕の下?

「……………」

……………せばいお

……精神衛生上とっても良くないものを見つけてしまったお

……というよりも何故俺の枕の下に置いてあるの？

“一夏×紅葉〽お前を寝取ってやるよ”

誰だ！こんな嫌がらせ俺の枕の下に置いたの！

アーーーーーッ！な展開なんてお断りだお！

……何か気持ち悪いお

篝ちゃんの胸に顔埋めて癒されるお)\*、(ハアハア

「ん……紅葉？」

…起きちゃったお

「篝ちゃん寝てていいよ」

「……何をしてるんだ？」

自分の胸の所に有る俺の顔を見る

「篝ちゃんの胸に顔を埋めてヒーリングなう」

「そうか」

「むむむ…」

抱きしめられたお((o)\*)。\*(o))

篝ちゃんのオパイ柔らかいお(\*´、\*´)

……………着物越しでも柔らかいとは…篠ノ之 篝、恐ろしい子!!

「そのまま熟睡するお

GOODNIGHT ( =´、´ )ノ

……………

「はあはあ……………」

「ひら〜〜〜〜〜」

ただいま篝ちゃんと共に全力疾走なう!!

もの見事に寝過ぎたおww

あまりにも篝ちゃんの。。。 (oミ。 オッパイ オッパイが気  
持ちよすぎて爆睡かましてたお)´、´、´ (

篝ちゃんは篝ちゃん

「お、お前の温もりが気持ちよくて……………」

っっていう理由らしい

ふたり揃って遅刻確定済みなのに……………

「遅刻が決まっても少しでも早く着こうとした意識は見せなければ…」

という理由で全力疾走なう！

「一文字堂、お前はグラウンドを20周だ」

クラス違うのにちーちゃんに怒られたお…

……………とてつもなくげせぬ

「夏ボコされればいいのに……ついでにイベントキ  
タ（。。）！」

「あ……そろそろ始まりますね」

まやまやが言っ

何が始まるって？

あれですよ

りんりんの一夏フルボッコタイム……誤字ったクラス代表戦だ

そんな事言ったら死合……ちがった試合が始まった

「一文字堂……お前から見て一夏に勝ち目はあるか？」

「なし」

ちーちゃん聞かれたので即答なうww

だって一夏って全然なんだもんさ

へっぽっすぎる………主人公補正さまさまワロス

銃口向けられてるのにいぐ……いぐ……いぐ………忘れたお  
（……………）

まあとにかくブーストで突っ込んでくるから見事蜂の巣ww

おほかの一言だね！

」の割に戦えてるぞ

「(((。 。 ー)))」

ほんとだお…一夏がまともに戦ってるお…

つままないお) (、)

せつかくボコにされるのを期待してたのに…

それからも互角の戦いが続いてるお

「(、。 。 ー)」

」面白くなさそうな顔をするな紅葉

「だってさ箒ちゃん、せつかく一夏の隠し玉のいく……………なん  
ちやらほんちゃんをりんりに教えて一夏の戦法も教えたのにボ  
コってないじゃん。つままないお!!」

……………どうでもいいけど箒ちゃんのお尻開発したいお(性的な

意味で)ww

」痛いお!!?」

箒ちゃんに木刀でぶたれた！

……………その木刀どこから出したの？

「お前が変な事を考えるからだ」

篝ちゃん( )と以心伝心( ) ( ) \* 。 。 \* ( ) ( ) ( )

「な…仲がいいんですね」

まやまや苦笑いなう

「ヴァカめ！人のものさしで測れる程ちっぽけな仲ではないわ！  
…… Wait ちーちゃん待って、にじり寄ってこないで！やあ  
のーアイアンクローはやあの！！」

「ちーちゃんと呼ぶな」

「ならちーたん」

「……………」

「みぎやあああああ！！む、無言のアイアンクローはやあ  
のおおおおおおおお！！」

篝ちゃんの脇腹ペロペロしたいお……………

「……………」

ほつき は ぼくとう を ふった！

「二回目の木刀ゴチです」

「あ、あははは……………」

まはやどつ反応したらいいのかわからないまやまやここです

つと…そろそろかにゃ？

混ぜりたいし準備しますかにゃ

「？……………紅葉？」

やどつとつと

IS展開なつww

混ぜなつちやどつゆ〜

「ISを展開して何をしてるんだ？」

「ん？？」

…篝ちゃんがいるお…………

「…えーとむ」

言い訳を熟考してたら警報が鳴ったお

…アリーナ見たらもう居るし！

出遅れたお!!

「あね「混ぜつてくぬー」



指差して示す

「……止めても無駄だろうから……せめて無事で帰ってきてくれ」

何か死亡フラグ立ちそうな台詞じゃない？死にたくないお!!

「おkおk、じゃー！いつてきまーす」

カタパルトから発進！

あ！某ニューでタイプな人の名言言い忘れたお!!

萎えるわ〜…

「?…紅葉!?!」

「チャオー夏、遊びに来たおww」

「遊びについてお前…というか鈴に俺の戦法とか教えたのお前だろ!!」

「(。・。・)(オレシラナイ」

「漫才やってないで真面目に戦いなさいよ!!」

りんりん怒られたお)。(。(。(

しばらく避けに徹していたら

「紅葉！ー夏！何をもちたしてる！男ならさっさと倒せ！」



俺っちの専用機最高のパッケージこと圧殺君ですよ

文字通り弾幕で圧殺するから圧殺ですよ

あ、そうだ

「一夏、りんりん、邪魔したら消しちゃっよ？」

「了解です!!」

一夏とりんりんが敬礼してきた

お、じゃあ始めるべ

「篝ちゃんを傷つけようとしたんだからさ? ∴ 原子レベルも残してやらないお)。。( \* (ニパッ」

パッケージ圧殺で増える装備はね?

ACで例えるならOIGAMI並みの弾薬の子爆弾を大量に積んだクラスター爆弾10連装式ミサイルポッド×4

ビームガトリングビット×6

ビームキャノンビット×4

の三種類

けど元から装備してるのもちゃんと使えるんだお!

俺、。(。ノスゴイ!



もみじくんにちじょう)笑)

「ん〜こっちを上げるべきだと思っつよ?」

「でもそっちを上げるとこっちを上げられない」

かんちゃんのIS制作お手伝いなう

あの無人IS?.....消し飛びましたが何か?

おかげでちーちゃんに

「もつ少し形を残せ!そうすれば調べられたもの」

と理不尽な説教されたお.....げせぬ

その事とかは乱交例?.....違うな...なんだっけ?

.....思い出せないお。」「(ノミ)ばんばん

まあどうでもいいやー!

それよりも!

「ねえねえかんちゃん!このISに...」

「却下」

「まだ途中までしか言ってないお).....」

「どうせ『ロマンのある武装を積もう』……もう50回は聞いた」

おうふ……………そんなにいつてたのか

「じゃあし」

「却下」

「……………（；ー）ー（ちえっ」

「追い出されたい…?」

「サーセン自重しまふ」

だからオムレンチみたいなサイズのレンチを向けないで？ぼく死んじゃうよ（；。）グスン

「……………ねえねえかんちゃん」

「……………何」

「暇だお（；。）（キリッ！」

「出っつて」

……………追い出されたおww

「暇だにや〜」



(しばらくお待ちください)

「酷い目にあつたお……………」

くそっ……………「ねは一夏で夏を晴らししなければ!!」

「というわけで来ますた)……………(キリッ!」

「あっそ」

「好きにしてください」

「え……………え〜と……………」

もはや俺の行動には慣れた幼馴染sとあわあわするセツシー(仲良くなりますたww)

……………セツシーってネス湖に現れた怪獣(仮)みたいな名前だよ  
ねww

でもなんか一夏の態度にイラってきた



「一夏一夏」

「何だよ」

「唐突フルオープン!!」

「ちょ、おま…」

IS展開からフルオープンまで決めてやったお。(。^ ^。)  
。ギャーハッハッハッハッハッハッハッハッハッハッハ

「紅葉イイイイイイイイッ!!!」

「(。(ノノ)」

一夏がすっごい表情で突っ込んできたお!!

「おとなしく制裁されなさい」

「(。(ノノ)」

りんりんに羽交い締めされたお!!??

「あ……………あぁ」

「アーーーーーッ!!」

「織斑姉弟は俺に恨みでもあるのか。」「\*（オプンスカプンスカ  
!!」

「もういっつなったら尊ちゃんに癒してもらっつか……」

「ああ、」文字堂くんちよつどよかった

「?」

なげまぢまぢなじっ?

「部屋の調整がしたので篠ノ之さんは別の部屋に移動です」

……………今日は厄日

か

俺がなにをしたんだ!!

ガチ凹みなう……………（、）（、）（、）トホー

「へげへげ」

机にべったりなう

篤ちゃんの寝てたベッドで睡眠したものの、起きたら篤ちゃんがないのでテンションダダ下がり

やる気でないお

「ほへへへへ」

「いんちき」

…かんちゃんがひどいお

「…」

「…見ないで」

……………（、）（、）グツタリ

もはや授業参加する為のテンションすら残ってないお…

テンションあげるために篤ちゃんに会いに行くお…

「で、なぜお前がここに居る」

ちーちゃんがこっち見てきた

「授業サボタージユなっ」

篝ちゃんを後ろから抱きしめたまま答える

篝ちゃんの匂い篝ちゃんの匂い篝ちゃんの匂い篝ちゃんの匂い  
、\*）ハアハア

「…」

篝ちゃん俯いてどした？顔赤いよ？

…首筋ペろり

「ひぁっ!?」

いい反応だお

「デュノア、その産業廃棄物を4組に引き渡してこい」

「え？え？」

デュノアとな？

そっちを見ると

おおシャルだ！

確かに男装美女だにや

けど今は…

「篝ちゃん」

篝ちゃんを堪能するおー！

「デュノア、早くしろ。ISを使って構わん」

「あ、はい」

むー俺と篝ちゃんを離そうとする悪魔M

「ギャプランン!?!」

…出席簿で殴られたお……教○委○会に訴えてやる) # 。 。 (

ムッキー

「安心しろ、教育の一環であって体罰にはならん」

なんとという理不尽か…

「これが噂のDVなのね!!!(ちがいます)

「…行くよ、やじ」

「おんお」

いつの間にかシャルさんのISの手につままれてる俺ww

「横暴だ！」

「それは僕じゃなくて織斑先生に言おうよ。それに授業をサボる君が悪いと思っつよっ。」

「もっとも（・・・）」

「さて、「ここから箒ちゃんを観察しますか」じゃ

ん？教室に連れて行かれたんじゃないかって？

甘いわ！吾輩、あんな程度で連行されるほど愚かではござらん！

ぶっちゃんけ変わり身の術使いますたww

今頃シャルさんは気づかず4組にいるんでしょうなww

「箒ちゃんは〜」

…居たお！

「ムフフ…相変わらずいい体型してらってる」

これは映像保存しておかねば!!

ちーちゃんに専用機持ち毎に別れるとでも言われたのかバラバラになった

「む、篝ちゃんはりんりんの班か」

…なんかもったいない組み合わせ……

「ここはセッシーとで胸デカな二人って感じになればよかったの  
にイ

「……………いやこれはこれで（。）。（よしー」

姉と妹的な感じでww

キタ（。）。（！りんりんの班は次篝ちゃんだお！

「おkおk、録画録画。網膜に焼き付けるのも欠かさずに」

準備かんりよ……………はにゃ？

「ちーちゃん？何を？」

篝ちゃんちーちゃんが何か会話してるお

「ブレード？何故？」

篝ちゃんが突然ブレードを取り出しちーちゃんに渡す

そしてそのブレードをちーちゃんが上に向けて投げた

「何してんだろ？」

「気になってきたお



よし…もつちよい近づく…

め、目の前にブレードが降ってきたお  
!!??

あと少し前に出てたら…

」(((。；。)))ガクガクブルブル

これは警告か？

……これ以上やったら殺されるお

……帰る……

」篝ちゃん帰ってこないかじゃ〜

部屋のベッドなじ

もちろん篝ちゃんが使ってた方

」おほい……退屈だぞ

コロコロしているとノック音が聞こえた

」「まおか篝ちゃん!？」





「早くない？」

「モーマントイ…… GOODNIGHT ( ; ( ; )」

「うん、うん」

ZZZZZZZ…

「ズンズンズン……」

僕は自分が寝ていたベッドの隣のベッドで寝る彼を見る

朝食を摂ってそのまま学園へ向かおうかと思ったが同室というこ  
ともあり一応見に来た

時刻はもう朝食を摂っている余裕は無い

そんな時刻なのに

「ZZZZZZZZ」

未だに爆睡していた

…起すべきなんだろうね

「一文字堂くん、起きないと遅刻するよ」

起きれるように揺する

「ん……………」

起きたかな？

「……………そっちに行くと……………行くと……………ZZZZZZ……………」

行くと何なの!?

「……………ほ、ほら早く起きないと!!」

今度はさっきよりも強く揺する

「……………」

むくりという感じに上半身を起こした

「あ、おきて……………」

「ば……………」

「ば?」

「バンカーと射突以外は近距離じゃなく中距離武器……………ZZZZZZ

「……………」

と言ってまた寝る





朝起きたら顔に激痛……理解不能なう

「くっそう……」最近厄日なのか？

と思いながら時計を見る

(。 。 ) ……

(っ) ヽ ヽ ヽ ヽ

( ; ) ……

(っ) ヽ ヽ ヽ ヽ

( ; ) …… !?

Y A R A K A S I T A

二日連続遅刻確定ww

これがここ最近篝ちゃんに起こしてもらってた弊害かっ!!??

おk

「……もっかい夢の世界へ」( ; ) ( . ) イッテテヨヨ

Z Z Z ……



「で？」

ちーちゃんからの呼び出しなうww

「寝坊しました(、・・・)(キリッ!」

「……………はぁ……………」

ため息つかれたおww

サーセン、まじため息つくだけはかんべん…何かリアクション、

(、・・)(ノホスイ

「次遅刻した場合400字詰め原稿用紙100枚にひたすら“篠ノ之  
箒なんて大嫌いだ”と書かせ、それを篠ノ之に見せるぞ」

「(((。・。))ガクガクブルブル」

そ、そんな事したら下手したら箒ちゃんに嫌われるお!?

やべえ！遅刻できねえ!!